

平成26年度 学校評価

○目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	本年度の重点目標
「継続を大切に」 ・育もう 自尊感情を ・耕そう 人や物、地域を大切にする心を	I 豊かな人間関係をはぐくむ教育活動の推進 II 確かな学力の確立 III 人や物、地域を大切にする心の耕し

領域	評価の観点	評価項目	学校関係者評価 A：優れている B：おおむね良好 C：やや改善 D：要改善
学校運営	豊かな人間関係をはぐくむ教育活動の推進	互いを認め、励まし合える仲間づくり、集団づくり	Aが適切な評価である ・オープンスクールや黒井城まつりなどの学校行事を通して、子どもたちが生き生きと学校生活を送っている様子が伝わってくる。 ・子どもたちの一人一人の居場所づくりや絆づくりに学校として取り組み、登校しにくい子どもが減ってきている。 ・全ての子どもが学校に行くことが楽しいと感じ、さらに一人一人のよさや可能性が引き出される学校づくりに取り組んでほしい。
		いじめ防止基本方針に基づく取組の推進	Bが適切な評価である ・挨拶も人間関係づくりの一環として取り組んでいるが、挨拶が自分からできる子どもとそうでない子どもがあり、学校、家庭、地域が一体となって、挨拶運動を推進する必要がある。 ・いじめが不登校につながることもあるので、学校として早期発見・早期対応に努めていることは評価できる。いじめを出さない学校文化を構築してほしい。
	人や物、地域を大切にする心の耕し	「黒井城まつり」や「黒井型体験学習」を通じた地域に対する誇りと愛着心の育成	Aが適切な評価である ・黒井城まつりや黒井型体験学習を通して、地域に対する誇りや愛着心が育っている。 ・県立氷上高校との計画的な交流も黒井小ならではの取組である。 ・平成たんば塾や甲冑づくり、ほとけどじょうの観察など、自治協議会と連携し、充実した取組が実施できた。
教育課程	確かな学力の確立	「わかる、できる」が実感できる授業づくり	Bが適切な評価である ・基礎基本の定着と学習習慣づくりが大切である。学校ですること、家庭と協力することを整理して取り組んでほしい。 ・国語や算数の勉強が好きと回答する子どもたちの割合は、十分に高いとは言えない。 ・全ての子どもが授業に参加し、「わかった」「できた」が実感できる授業づくりを一層推進してほしい。
		家庭と連携した生活リズムづくりと家庭学習の充実	Bが適切な評価である ・子どもたちの学力や学習、生活状況を保護者に文書や懇談会等で知らせ、家庭との連携を深めていこうとする姿勢が感じられた。 ・家庭でのテレビ視聴やテレビゲームの時間、携帯電話・スマートフォンの使用について、各家庭で約束づくりをする必要がある。 ・読書の習慣が身につけていない。「家庭読書の日」を設け、市や家庭と連携して読書活動を推進していく。

自己評価の実施方法についての評価

6月には、保護者と児童に生活アンケートを実施し、学習に対する意欲や生活実態を調査した。その結果を地区懇談会「ひとみ輝く黒井っ子を育てる会」で提示し、保護者、地域住民、教職員などの参加者が子どもたちの生活力の向上について話し合った。  
2学期には、再度アンケートを実施し、その結果を6月の結果と比較し考察されているので、取組の成果や課題が把握しやすくなっている。2月には、成果や課題を考察したものを保護者に周知するなど、適切に情報提供がなされている。

学校関係者評価のまとめ

豊かな人間関係をはぐくむ教育活動の推進については、子どもたちの明るく生き生きとした声が学校中から聞こえ、子ども同士や子どもと教師との絆づくり、信頼づくりが推進できている。  
人や物、地域を大切にする心の耕しについては、「黒井城まつり」や黒井型体験学習を通して、地域の自然、歴史、産業、人とのかかわりなど、発達段階に応じて計画的に地域と連携したふるさと学習が展開でき、心の耕しを図ることができている。  
確かな学力の確立では、子どもたちの学習意欲を高めるとともに、「わかった」「できた」が実感できる授業づくりを一層推進してほしい。家庭学習や家庭読書など、家庭との一層の連携を図っていかねばならない。